

福島大学

行政政策学類

キャリア教養学科

Q. 編入を考えたのは、いつからでしたか？また、その理由を教えてください。

短大に入る直前の高校三年の三月です。もともと高校の時は四年制大学を目標にしていたのですが、進路が実現せず、浪人も出来ず、悩んでいたところ高校の担任から聖母での編入を進められ、三年次編入を目指そうと考えるようになりました。また、自分の将来を明確に決めないまま四年大を目指していたということもあり、これを機にもう一度自分が将来何になりたくて、それを実現するにはどの大学に入ればいいのか考え直そうと思ったというのも理由の一つです。

Q. 編入までのプロセスを具体的に教えてください。ガイダンスはいつ、どのような内容ですか。

一、二年通年で行われる「キャリアデザイン」という授業で、大学研究から小論文・面接・志願理由書の書き方対策まで一つ一つ丁寧に教えていただきました。編入という制度自体あまり有名ではないため、ネットにも情報が少なく、身近に編入した人もいなかったため不安でしたが、この講義を通して編入のノウハウを一からお教えいただき、入学時に抱いていた不安や疑問は解消できました。

Q. 実際の学習指導は、いつから、誰にどのような形で指導されましたか。

英語は入学後すぐ、小論文・面接・志願理由書は一年の後期から本格的に先生から講義の中でご指導いただきました。英語は和訳問題からリーディング問題まで、難易度の高い問題を一度自分の力で解き、その後何が分かって何が分からないのか明らかにして、そこから先生にご指導いただきました。小論文は、講義の中で、どのような型で作成し、自分の意見を論述するには日頃どのような学習をすればいいのか、基礎からご指導いただきました。また、二年生に入ったら、授業外でも英語や小論文の過去問の添削を先生にお願いしていました。

Q. 編入対策で努力したことは何ですか。具体的にどのような勉強をいつからしましたか。

小論文のためのネタ探しです。小論文は自分の中にたくさん知識がないと時間内に字数を埋めることも、説得力のある記述をすることもできません。そのため、二年生になる少し前から新聞や本を読み、そこから自分が思ったことや意見をノートに書いていました。読んで終わりではなく、そこからアウトプットすることで、徐々に自分の意見を持てるようになりました。

Q.聖母の学びで力になったことはどんなことですか。

多角的な視点を意識するようになったことです。キャリア教養学科は幅広い学問を学べるため、様々な知識を得ることができるのはもちろん、グループディスカッションがたくさんあったため、普段あまり関わりのない人とも深い議論をする機会がたくさんありました。そのなかで、自分になかった考えに触れることができ、視野が広がったと感じています。

Q.先生のアドバイスで役に立ったことはどんなことですか。

「そこに入って何をしたいかも大事だが、何になるためにそこに入りたいのかも大切」というアドバイスです。私はもともと四年大に入ることがゴールになっていたため、将来イメージが漠然としていました。しかし、このアドバイスを頂いてから、自分は将来何をしたいか、そのためにはどうしてその大学でないといけないのかという、自己分析をすることが出来ました。

Q.①大学（短大）受験の時の気持ち・②短大入学時（学生生活）の気持ち・③編入試験前の気持ち・④合格した時の気持ちを教えてください。

- ① 絶対に編入合格しようと思いました。
- ② 本当に合格できるのかという焦りと不安でいっぱいでした。
- ③ 今まで自分がやってきたベストを尽くせば、仮に結果に繋がらなくても後悔はないと思っていました。
- ④ とても嬉しかったです。そして、高校から続いていた受験生という括りから解放され、やり切ったという気持ちでした。入学以降、編入の道を選ばなければよかったと思うこともありましたが、諦めず頑張ってよかったと思いました。

Q.これから聖母短大に入学する、または聖母短大から編入を目指す後輩に伝えたいことは何ですか。

編入という制度はあまり有名ではないので、不安が大きいと思います。ですが、聖母には手厚いサポートをしてくれる先生と、同じ志を持つ仲間がいます。編入を考えている人の中には、大学受験に失敗したため編入を目指している人も多いと思います。私は高校時代に特に将来の目標もなく、ただ漠然と四年大に入るというためだけに編入を決めました。しかし、聖母の学習の中で、自分は将来何になりたいのか、二年という時間の中で様々な選択肢を模索することが出来ました。編入を目指すことで、自己分析のきっかけになり、自分の将来のためにも編入を選んで良かったと感じています。簡単な道ではありませんが、合格しても出来なくても、編入にチャレンジすることで得るものはたくさんあります。不安だと思いますが、助けてくれる人が必ず聖母にはいるので、迷った時には誰かに相談しながら聖母での二年間を充実したものにしてください。応援しています。